

大正二年二月十一日  
第三種郵便物認可  
(毎月曜日發行)

# 上海

No. 24. "THE SHANGHAI."

大正二年  
七月廿一日  
第二十四號

### ▲目次▼

- 滬上小言 昨今の時局
- 時事雜錄 南方の風雲動く(亂事叢錄)
- 文苑
- 時局と漢字新聞の態度
- 時局と上海
- 萬國通商
- 上海港船舶出入統計
- 上海港輸出統計
- 郵船會社在滬船統計
- 金融市況
- 各種商況

## 滬上小言

### 昨今の時局

我等同人は支那の時局に干し、今日既に積弱なる支那が更に其の積弱の程度を加へんことを憂ひ、今日の支那に動亂なからしめ、支那の識者が互に克く協力一致、國家を成立せしめ、個人間の感情を基とし國家存立の危険を度外視するが如き事なからんことを切望し、之を論述し來りし也、蓋し一たび時局紛糾せんか既に商況不振なるに更に不振を加へ、國際貿易の上に更に大打撃を與へ、の結果支那の産業、商業の沈滞となり、海關は其の収入を減じ、既に財政困難なる支那の財政は倍貧弱の度を増し、終に到底支那人自らの力にて之を救ふ能はざるに至り、諸列強の力を借り、之を處理する外、道なきに及び、支那の財政はその獨立を失ふに至るを思ひて也、我等同人は此の危機の來るを防ぐに、支那有識者の覺醒してよく協力一致鞏固なる政府を組織し、租稅等自國の收入にて行政

費を支出し借債償却の道を講じ、支那が財政上獨立し、諸列強に安心せしむるの方法を探るの必要を主張し、所謂政争はその後に行ひて決して遅からずと論述せるは、一に止まらざりし也、然るに不幸にして袁氏の行動と、黃興氏一派の感情とは到底國事に於て協力一致する能はず終に今日の紛糾せる時局を見るに及び、これより支那人は塗炭の苦しみを甘受せざるべからず、氣の毒なる語也、我等は實に此の不幸なる支那良民の爲め、今日の狀態を悲しむ者也、然れども事既に此に臻る、争は開始せられたるなり、最早兩者は一步も退く能はざる也、往く所迄往かざるべからず、所謂討袁軍諸君は既に起りて、全然其の目的を達する迄は何處迄も進むべく、敢て一步も譲るが如き事あるべからず、袁氏亦た既に背水の陣頭に据られたり、討袁軍と云ふ、當の敵は袁世凱個人の上にある、彼れ亦た極力自己の主張を貫徹すべく、其の力のあらん限り爲すべきを成さんと勉むべし、此の如くにして兩者共に退く能はざるの地位に在り、而して兩者が争ひて止まざるの結果、我等は不幸にして支那が倍其の積弱の程度を加ふるを思ふの他なき也、

南方の各省は既に各獨立を宣言したりと云ふ、これ各地方の安寧と秩序を保たんが爲め也、我等は此の如くにして商業上の不振が恢復し得られん事を希望す、在來何時何處に何事があるかわからぬ爲め、常に不安の念に驅られ商人は安心して商賣をなす能はざりし次第にして、既に或る一定の地點に於てのみ、戦闘あり他の地方は全然安全なりとの保障あらば商賣も行はれ得べき筈なり、然れども各地の紙幣若くは債券の現金に兌換せらるざるの今日、上海の金融界は果して如何、支那内地の金融界は果して如何、我等は到底之を樂觀する能はざる也、而して今日迄既に引締りたる金融は倍引締り、支那人の富豪等は其の金を銀行に入れ置きて流通せしめず、商業上に融通する事なく、北方にて發行せられし國庫債券すら現金と兌換せらるる時なかるべく凡て悲觀すべき原因あるのみ也、

今次討袁軍の組織公表せられ、上海の綿布競賣は既に中止せられ、銀額は暴騰し、一般の商賣は又停止の有様あり、當分何事にも手つかぬ事なるべしと云ふ然れども此の如き現象は若し討袁軍が南方各省とよく一致し、善良なる政治を行ひ、各地の安寧秩序を保つて示し得る時は消滅し得るやも知れず、今日我等同人が此の際に切望するは討袁軍も袁軍も共に良民に何等の苦痛を感せしめざるに勉めん事これ也、無幸の良民、紳董等の生命と財産の安固に向つて出来る丈の盡力あらん事也、

我等は思ふ、世界の列強は此の次の争亂に於て皆嚴正に局外に在り中立的態度を持すべし、而して我が日本の如き亦た然るべし、これ又た我等の屢云へる通りなるべし

支那人をして自から支那の事物を處理せしめよ、萬事萬端支那人自から其の國の事物を處理し得て、而して後支那人は世界列強に對し尊敬を受くるを要求し得べき也、外國人の干渉をも生ぜざるに至るべき也、たゞそれの列強の臣民の生命財産に影響する場合には列強は應に取るべき手段を遂行して止まざるべし、我等は今次の争亂が中途にて妥協に終るなからん事を希望す、既に開始せられたる以上、若し妥協的解決を見れば、再び三たびしてなほ且つ争を繰りかへすに否なし、やる處迄互に大にやるべし、否なし此の次は大にやるに相違なからんことを切望す、一方が他の一方をして屈服せ

● 資本金 四千八百萬圓  
(内拂込參千萬圓)

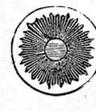
● 積立金 壹千八百貳拾萬圓

● 當座預金 年貳分

● 定期預金 三箇月年二分  
六箇月年三分  
十二箇月年四分

● 小口當座預金 月三厘

右小口當座預金ハ最初墨銀五弗以上次ヨリハ一弗以上御預り可申候  
但シ利息ハ預リタル月ト拂戻ス月並ニ五弗未満ノ殘高ニハ之ヲ付セズ



## 橫濱正金銀行

營業部 二七四  
輸入部 三〇〇七  
電話 支配人席 三〇〇三

本支店及出張所

臺北、臺中、臺南、基隆、嘉義、打狗、宜蘭、淡水、新竹、阿猴、花蓮港、澎湖、東京、大阪、神戸、香港、廣東、汕頭、廈門、福州、九江、新嘉坡

其他各所ニ取引先アリ

上海黃浦灘路第拾六號

## 臺灣銀行

支配人 江崎真澄  
營業部 (二二六五)  
電話 支配人席 (三三二二)

諸事精々御便宜相圖可申、御用ノ御方ハ支配人席へ御電話被成下度候

しむる迄やるべし、而して支那の全部を統一し、號令一途に出で、民をして歸する所を知らしむるを要す、

此の度の争亂生ぜる迄我等は常に支那の識者が協力一致、國事に従ふの要を飽くまでも説きたり、しかも事此に臻る、最早事を糊塗にすべからず、斷乎乎として大にやるべし、何處迄もやるべき也、此の如くならば商業上及ばず影響も存外輕減さるべし、

孰れにしても、我等の希望する所は支那が統一せられ、支那人がよき自ら支那を支配し、よく號令一途に出で得る鞏固なる政府を樹立し得るに至らん事是也、

變轉常なきは人事の免かれ難き所也、併しその轉化の絶えざるが如きは此の状態にある國の人民の一大不幸也、否之と交通する列強人民に取りても不幸也、た自然の成行に任せ得べきは往くは、大事の盡すべきは盡し、往く所迄往くは當然の數にして、成る様にしか成らぬ也、而かも之を成すに出来る大害毒を少なからしめ、出来る丈良民を苦しめざらしむる事肝要也、而してこれには是非其事を糊塗に付すべからず、妥協的解決は禁物也、何として斷乎乎として最後迄相争ひ一方が他の一方を屈服せしむる迄大にやるべし、其れ迄の困難事は統一後に立派に取返へし得べき也、必らず取かへさんとこの決心あれば時の問題としても必らず出来る事なりと思ふ、

既に股劍す、名譽ある方法に、あらず決して之を其の鞘に納めしむべからず、所謂中途半端に事を糊塗に付するは萬事につけて禁物也、殊に今の争亂に於て嚴禁也、これ即ち我等同人昨今の時局に對する所感の一端也、

外は外政、邊警の多事に苦しみ、内は財政の窮乏と内訌の煩に悩むる時に値り兼ねて不穩を傳はれつつあり、江西は遂に爆發し、南京亦之に次で獨立を宣言して根據地を此の地に奠め、共に討袁軍を組織し天下に號召して起り、茲に於てか殺機動いて人心動搖し、東南の諸省中之氣脈を通じ袁氏に嫌焉たらざりし不平の徒は獨立を宣言して之に雷同し、懸々たる長江流域の沃野は再び戰國に入りんとす、

想ふに今回江西の發難は兼ねて袁氏の暴力に壓迫せられたる反袁派「國民黨」の反發なり、故に其の企畫根柢の深き暴徒騷擾の類に非らず、其の牽動影響する所も多し且つ廣きは勿論なり、然れども袁氏たる者已に殘忍刻薄の高壓手段を以て敵黨に對せる以上今日の變を預期せる所ならざる可からず、之を以て動亂の豫定慶亂は、袁氏の態度と籌策によりて決せらるべし、知らず袁氏は如何の策を以て之を以て其の目的を達せんとするか、此の一舉は實に支那の治亂興亡の岐る所なり、さらば我等は序を追ふて動亂の經過と京外一般の情勢を叙し讀者の參考に供せんか、

時事雜錄

南方の風雲動く

天下大亂民國興亡の機

將來の局面官民の勝敗

黨の爲に氣を吐きたり、即ち軍民分治に反對せるを始とし之れが結果中央の任命せる民政長の委任を拒む事前後二回九江瑞蘭、趙從善、茲に於て中央との衝突となり江西省購入武器の差押さなり交渉切迫するや王芝祥の出張調停により大事に至らざりしも其他九江鎮守使、戈克安を逐ひて九江を佔めしが如き或は鐵道總會協理羅山の拘引の如き隱然中央に對して一敵國を成せるの觀ありき、然ども當時國民黨の勢力盛んばざりしが宋教仁に江西を處置する事態に於て袁氏は俄かに被殺、國會の開設等により北京政府勢力の増大を來し漸く國民黨を侵食し彼黨の實力判明するや高壓手段に變じ北洋の勁旅は漸次武漢の地に集中され直ちに江西逼迫の勢を示したり、茲に於てか李烈鈞も亦瑞蘭、馬鬣等湖北の省に於て兵力を集中し北軍に備へ形勢は刻々急を告げ袁國兩黨の議員有志互に辯護士持して風雲暗膽たるものありしが其後北兵の南下相次ぎ優に江西を壓するに足るや袁氏は六月九日遂に一道の命令を發して此の大敵を驅逐し去りぬ十九號時事雜錄参照是れ江西の爆發せる遠因の一なり、

二當時世人皆李の革職を機とし國民黨の蹶起すべきを期待せしも李は虛心坦懐に任を去り一路上海に安臥して世の視聽を遠ざかりき、袁は李を下くるや黎元洪に江西都督を兼任せしめ江西第一師長歐陽武に陸軍中將を授け兼ねるに護軍使に任じて全省兵馬の權を制せしめ、九江衛戍司令官たる陳延訓を江西要塞司令官に任じ九江、湖口一帶の江西各營を節制せしめ凡て陸軍都督の直轄に移し、更に舊統一黨員たる賀國昌を民政長に推し軍民分治の實を擧げたり、是れ李烈鈞一派の蹶起せる遠因の二なり、

三國民黨々勢漸く振はざるや、該黨員は全力を擧げて頽勢の挽回に勉めたり、

之れが結果は北京に在りては該黨議員の死守奮闘して政府の大勢に抗せ、南方に在りては上海の本部を始めとし運動に勉めたる、更らに武漢改進黨の勃發となり、之の失敗するや先般の公民討賊團の起事となり中途にして露見し有名なる大慘殺を演出したる、而して此の殘黨は猶湖北及び江西の各地に潜居して煽惑又は機を窺へる實に所在伏莽の有様なりき故に要塞司令官陳延訓は黎元洪に乞ふて曰く、

李督去りてより人心浮動し伏莽甚多し九江湖口は長江の要區に匪黨の往來織るが如し、防禦に勝たざる有様なり聞く所によれば上下砲台(九江)を煽惑し期を定めて事を擧げんとす、台官中其の動かす所と爲りし者あり、他に一二不肖の台官を隱約の裡に他に轉任せしめ別に員を派して軍械を收受し以て亂萌を杜がんとす惟た禍機隱伏一ひ發せば收拾すべからず、又聞、匪黨大金を持して運動に着手せりと頗くは急に軍隊及軍艦を派遣せられん事を云々

江西爆發の原因

一江西は廣東と共に全國に於ける國民黨の有力なる根據地なり、殊に去年李烈鈞が馬鬣實の後を受けて都督となるや愈其本能を發揮して中央の橫暴に反抗し國民

之れが結果は北京に在りては該黨議員の死守奮闘して政府の大勢に抗せ、南方に在りては上海の本部を始めとし運動に勉めたる、更らに武漢改進黨の勃發となり、之の失敗するや先般の公民討賊團の起事となり中途にして露見し有名なる大慘殺を演出したる、而して此の殘黨は猶湖北及び江西の各地に潜居して煽惑又は機を窺へる實に所在伏莽の有様なりき故に要塞司令官陳延訓は黎元洪に乞ふて曰く、

李督去りてより人心浮動し伏莽甚多し九江湖口は長江の要區に匪黨の往來織るが如し、防禦に勝たざる有様なり聞く所によれば上下砲台(九江)を煽惑し期を定めて事を擧げんとす、台官中其の動かす所と爲りし者あり、他に一二不肖の台官を隱約の裡に他に轉任せしめ別に員を派して軍械を收受し以て亂萌を杜がんとす惟た禍機隱伏一ひ發せば收拾すべからず、又聞、匪黨大金を持して運動に着手せりと頗くは急に軍隊及軍艦を派遣せられん事を云々

北軍湖北に駐屯後頗る効あり、本と江西に北軍を送るは猜嫌を増さしむる恐あれば願ふ所に非らざるも、要塞は中央に屬す且つ九江の防備は大切なり殊に先日湖北暴動の敗軍の徒江西に逃入りしこの説あれば復た陳司令の報によれば形勢急なれば決して捨て置く可きに非らざれば李軍を九江に派遣し防守せしむべし云々

機は忽せすべからず黎は直ちに李軍に出動を命じ彼の軍は本月初より漸次界を逾りて江西に入り九江に進駐したり、是

日清汽船株式會社 上海出帆 每週月夜半浦東棧橋ヨリ發 每週土夜半郵船棧橋ヨリ發 上海支店 黃浦灘路第五號 漢口宜昌線 一ヶ月六回 漢口湘潭線 一週二回 漢口常德線 一週一回 九江南昌線 一月三回

大倉組 上海九江路第拾七號 株式會社 大倉組 上海支店 電話 輸出、石炭 二八〇六 輸入、會計 二八八六 支店長室 三〇一四 本店 東京市銀座通二丁目 七番地 大倉益昌碼頭(浦東)事務所 (電話三〇七九) 支店及出張所 大阪、橫濱、橫須賀、神戸、吳、門司、佐世保、舞鶴、沼津、京城、臺北、臺中、打狗、天津、漢口、上海、大連、北京、倫敦、紐育、漢堡、瀋州、下關浦口渡船時刻

れ、江西人の反感を買ひ李等の起事に便せし近因の一なり、

四同時に上海方面に對しても國民黨の本部を脅かし兼ねて機器局の防守を全ふせんが爲め海軍中將鄒汝成に北洋四師の兵三營を附して駐防せしめたり、而して安徽都督柏文蔚の機任ありて國民黨の感情を益激せしむるの擧を以て政府が故意に南方を敵視する者とし輿論の喧囂を招き暴發を速かならしめたり是れ近因の二なり

斯くて九江に入りたる李純部下の軍は九江を防守すると共に陸續南海鐵道に添ひ省城に向つて南進せり、

恐入省の報一度は傳はるや江西省民の恐慌甚しに遂に賀民政長は各司を運わて北兵撤回請求の電報を發せり曰く、

北兵が九江駐防は防亂の爲めに所置の周密なること感佩に勝れざるも、

省城商民は此の報ありし後甚だ惶駭し北兵の來省は主客の間に或は衝突を生じ禍變の及ばん事を恐れ遠く避難安置せざる者あり、之を李都督の免官當時に比するも驚懼の狀更に甚し顯くは全省の生靈を憐み軍隊を調回されん事を云々

更に一方李烈鈞に同席せる省議會、商會、教育總會等も紛々として北兵出防の謂れなきを論じ其の撤回に達せず、此等の報紛々として其の下に達するや武漢大擾殺に自ら恐れ居る黎は李純に退回を命ぜりし李は斷乎として之に反し益兵を集め南昌進出の計を策しつゝありき

▲亂事勃發討袁軍成る

北軍江西進駐の反感斯の如く甚しきや、上海本部に疑議に多忙なりし李烈鈞は本月七日蔡銳霆等舊部を卒る南京を経て急遽湖州に潛行し、八日同地鎮台衙門に據り、九日免官の砲台士官李名揚等と起事を密謀し舊部下を招集して江西の獨立公

布の件を決議し、李烈鈞は主要次の徵文を省内各軍隊及各機關に發して奮起を促したり、

余は免官後上海に赴き保養中なりしに忽ち北軍が郷省に入るの報に接し憤慨に堪はず、余は郷省の福祉保持の爲め身命は欲する所に非らず、今や已に郷省に回へり來り、我が省の爲めに力を効さんぞ云々

此の報傳はるや省民は警異の感に打たれ李の舊部は時至れりとして、翌十日は第二師團長劉世鈞、旅團長方某(以上二人向背不明)機關砲隊長卓某及び團長周某等を湖口に會し、同時に湖口の砲台を奪取したり、

湖口に在りて李等の作戰に鳩着せる間に九江に進駐せる北軍は十日に至り九江南方約五哩の十里舖に向つて進發し附近の賽湖、瓜子嶺、毛家山等には約混成一旅團を駐め電話を布設し十一日沙河に向へり、一方九江に在りて陳廷訓兼會と交渉して兵餉の調達に力を致し兼ねて保衛に任じ居たり、十二日に至り沙河一帯を警備せる德安屯駐此の第二師旅長林虎の兵は北軍の南進を阻げたり、茲に於て南北兩軍は兵火の裡に見む潯陽江畔は戰場と化し、外人避暑地として有名な牯嶺は遂に交通を斷絶せらるゝに至り、

戰爭の實狀に至りては袁國兩軍に於て發表せる死傷百名を致ふと傳ふ者あれば北軍の覆没一千一百名を失へりと傳ふ者あり(チャイナプレス)加之目下九江の電報不通の状態に在れば眞想を知り難きも要するに未だ大戰なき云ふが事實に近きが如し

十七日某處に達したる電報によれば北軍は漸次其數を増加し南進中にて江西軍は沙河を撤して普進中

とあり然れども、兩軍最初の接觸戦たり

十里舖附近の戦は地の利を占めたる江西軍が北軍の前衛を撃退せるに過ぎざるべきか、

▲外交團領事團に通牒 事茲に至る討袁軍は遂に廣く號召し北京駐節の各國公使及各地駐在の外國領事に宛て次の通牒を發して起事の大旨を明かにしたり、

民國前歲の革命は諸友邦の助力を以て遂に成功を得たり國民今に至つて感荷已む靡し茲に袁世凱は帝制の意圖を爲し共和を破壞す全國の公敵たり本軍は國民の公意に因つて已を得ず師を興し賊を討ち以て亂源を靖めんぞす凡そ本軍は戰闘區域以内勢力の及ぶ所の地に於て其の居留地外人の生命財産に對し意を加へて保護せざる無く並びに本軍總司令部に於ては國際法及び國際慣例に按照し一切の交渉事宜を處置す願はくは我が各公使領事は局外中立を嚴守し以て本軍の成功を促がさんことを所有本軍々隊は悉く白旗を以てし又た白布を腕に纏ひて表示と爲す師起の日稍や大概を布き公鑒を統維す

戰事已に開けり、江西軍は勢聲の大なるに因り全省を擧げて公然獨立を宣したり即ち十三日南昌省議會は特別大會を開き李烈鈞、討袁軍總司令に歐陽武を都督に推し、賀國昌は依然民政長とし、愈應鴻を兵站總監に任じ歐陽武の對して、公然討袁軍の徵文を公布し廣く天下に呼號したり文に曰く、

江西は光復より後李都督が贛(江西)を治め地方の秩序井然たるを得たり後袁世凱の輿動が法に違ひ共和に乖るを以て我が輿民及び李都督は時に進んで直言忠告し其の悔悟せんことを冀へり乃ち中央は反つて猜忌を生じ日に吾が贛人に對するを思ひ吾が贛人倚任の李都督を免官せり吾が贛人は大局を顧全す

るが爲め猶ほ復た委曲全を求め而して袁世凱は猶ほ之を諒せず故無く軍隊を派し贛に來らしめ聲を挑むも贛軍は猶ほ復た含忍せるに乃ち節々進逼し突として砲火を施せり此種の擧動は直ちに仇敵を以て贛を視盜賊を以て贛人を視るものにして其の共和政府の資格を失ふものなり吾が贛人忍ぶ可き無く寇讐を以て之を待ち以て共和を保障し民賊を驅除せざるを得ず現に懇に李都督に請ふて贛に還り政務を主持せしめ獨立を宣言す惟だ念ふに中央種々の罪惡は皆本袁世凱一人の造成する所なり義師の指す所は袁賊を討つを専らにして四萬々同胞に對しては毫も敵意無し吾が東南の諸省は革命首先發難の地に於て宿より共和を保障し約法を擁護するの宏願を具す倘し亦た風を聞かば興起し雲集響應し罪を聲らし討を致し元凶を誅殛し以て民國を奠めよ

▲北京政府の態度

今回江西の警報至るや北京政府の態度は預期せるもの如く頗る沈着慎重の態度に在るが如し想ふに時正に蒙古問題の急なる時に於て露國との交渉は只議院承認の一事を待つて一段落を告げ力を南省に専らにし得るを以て議會に對する運動に日も足らざる有様を在り、而して江西の事爆發するや十二日を以て歐陽武に陸軍上將銜を與へ、劉世鈞(第二師長)に陸軍中將銜を授け李純を九江鎮守使たらしめ劉世鈞をして之に副たらしめ先つ江西首腦部の動搖に楔子を打てり、而して翌十三日は滿洲の張作霖に勳二位を與へ、丁槐を陸軍中將に任じ、而して政黨に托して江西の亂事に及び暗に國民黨の牽制に及びたり曰く、

黎元洪の電稱に據るに近日亂黨多く政黨の名義を借り軍隊に勾結して黨票を

▲外交通領事團に通牒

民國前歲の革命は諸友邦の助力を以て遂に成功を得たり國民今に至つて感荷已む靡し茲に袁世凱は帝制の意圖を爲し共和を破壞す全國の公敵たり本軍は國民の公意に因つて已を得ず師を興し賊を討ち以て亂源を靖めんぞす凡そ本軍は戰闘區域以内勢力の及ぶ所の地に於て其の居留地外人の生命財産に對し意を加へて保護せざる無く並びに本軍總司令部に於ては國際法及び國際慣例に按照し一切の交渉事宜を處置す願はくは我が各公使領事は局外中立を嚴守し以て本軍の成功を促がさんことを所有本軍々隊は悉く白旗を以てし又た白布を腕に纏ひて表示と爲す師起の日稍や大概を布き公鑒を統維す

戰事已に開けり、江西軍は勢聲の大なるに因り全省を擧げて公然獨立を宣したり即ち十三日南昌省議會は特別大會を開き李烈鈞、討袁軍總司令に歐陽武を都督に推し、賀國昌は依然民政長とし、愈應鴻を兵站總監に任じ歐陽武の對して、公然討袁軍の徵文を公布し廣く天下に呼號したり文に曰く、

江西は光復より後李都督が贛(江西)を治め地方の秩序井然たるを得たり後袁世凱の輿動が法に違ひ共和に乖るを以て我が輿民及び李都督は時に進んで直言忠告し其の悔悟せんことを冀へり乃ち中央は反つて猜忌を生じ日に吾が贛人に對するを思ひ吾が贛人倚任の李都督を免官せり吾が贛人は大局を顧全す

るが爲め猶ほ復た委曲全を求め而して袁世凱は猶ほ之を諒せず故無く軍隊を派し贛に來らしめ聲を挑むも贛軍は猶ほ復た含忍せるに乃ち節々進逼し突として砲火を施せり此種の擧動は直ちに仇敵を以て贛を視盜賊を以て贛人を視るものにして其の共和政府の資格を失ふものなり吾が贛人忍ぶ可き無く寇讐を以て之を待ち以て共和を保障し民賊を驅除せざるを得ず現に懇に李都督に請ふて贛に還り政務を主持せしめ獨立を宣言す惟だ念ふに中央種々の罪惡は皆本袁世凱一人の造成する所なり義師の指す所は袁賊を討つを専らにして四萬々同胞に對しては毫も敵意無し吾が東南の諸省は革命首先發難の地に於て宿より共和を保障し約法を擁護するの宏願を具す倘し亦た風を聞かば興起し雲集響應し罪を聲らし討を致し元凶を誅殛し以て民國を奠めよ

▲北京政府の態度

今回江西の警報至るや北京政府の態度は預期せるもの如く頗る沈着慎重の態度に在るが如し想ふに時正に蒙古問題の急なる時に於て露國との交渉は只議院承認の一事を待つて一段落を告げ力を南省に専らにし得るを以て議會に對する運動に日も足らざる有様を在り、而して江西の事爆發するや十二日を以て歐陽武に陸軍上將銜を與へ、劉世鈞(第二師長)に陸軍中將銜を授け李純を九江鎮守使たらしめ劉世鈞をして之に副たらしめ先つ江西首腦部の動搖に楔子を打てり、而して翌十三日は滿洲の張作霖に勳二位を與へ、丁槐を陸軍中將に任じ、而して政黨に托して江西の亂事に及び暗に國民黨の牽制に及びたり曰く、

黎元洪の電稱に據るに近日亂黨多く政黨の名義を借り軍隊に勾結して黨票を

▲外交通領事團に通牒

民國前歲の革命は諸友邦の助力を以て遂に成功を得たり國民今に至つて感荷已む靡し茲に袁世凱は帝制の意圖を爲し共和を破壞す全國の公敵たり本軍は國民の公意に因つて已を得ず師を興し賊を討ち以て亂源を靖めんぞす凡そ本軍は戰闘區域以内勢力の及ぶ所の地に於て其の居留地外人の生命財産に對し意を加へて保護せざる無く並びに本軍總司令部に於ては國際法及び國際慣例に按照し一切の交渉事宜を處置す願はくは我が各公使領事は局外中立を嚴守し以て本軍の成功を促がさんことを所有本軍々隊は悉く白旗を以てし又た白布を腕に纏ひて表示と爲す師起の日稍や大概を布き公鑒を統維す

戰事已に開けり、江西軍は勢聲の大なるに因り全省を擧げて公然獨立を宣したり即ち十三日南昌省議會は特別大會を開き李烈鈞、討袁軍總司令に歐陽武を都督に推し、賀國昌は依然民政長とし、愈應鴻を兵站總監に任じ歐陽武の對して、公然討袁軍の徵文を公布し廣く天下に呼號したり文に曰く、

江西は光復より後李都督が贛(江西)を治め地方の秩序井然たるを得たり後袁世凱の輿動が法に違ひ共和に乖るを以て我が輿民及び李都督は時に進んで直言忠告し其の悔悟せんことを冀へり乃ち中央は反つて猜忌を生じ日に吾が贛人に對するを思ひ吾が贛人倚任の李都督を免官せり吾が贛人は大局を顧全す

▲北京政府の態度

今回江西の警報至るや北京政府の態度は預期せるもの如く頗る沈着慎重の態度に在るが如し想ふに時正に蒙古問題の急なる時に於て露國との交渉は只議院承認の一事を待つて一段落を告げ力を南省に専らにし得るを以て議會に對する運動に日も足らざる有様を在り、而して江西の事爆發するや十二日を以て歐陽武に陸軍上將銜を與へ、劉世鈞(第二師長)に陸軍中將銜を授け李純を九江鎮守使たらしめ劉世鈞をして之に副たらしめ先つ江西首腦部の動搖に楔子を打てり、而して翌十三日は滿洲の張作霖に勳二位を與へ、丁槐を陸軍中將に任じ、而して政黨に托して江西の亂事に及び暗に國民黨の牽制に及びたり曰く、

黎元洪の電稱に據るに近日亂黨多く政黨の名義を借り軍隊に勾結して黨票を

▲外交通領事團に通牒

民國前歲の革命は諸友邦の助力を以て遂に成功を得たり國民今に至つて感荷已む靡し茲に袁世凱は帝制の意圖を爲し共和を破壞す全國の公敵たり本軍は國民の公意に因つて已を得ず師を興し賊を討ち以て亂源を靖めんぞす凡そ本軍は戰闘區域以内勢力の及ぶ所の地に於て其の居留地外人の生命財産に對し意を加へて保護せざる無く並びに本軍總司令部に於ては國際法及び國際慣例に按照し一切の交渉事宜を處置す願はくは我が各公使領事は局外中立を嚴守し以て本軍の成功を促がさんことを所有本軍々隊は悉く白旗を以てし又た白布を腕に纏ひて表示と爲す師起の日稍や大概を布き公鑒を統維す

戰事已に開けり、江西軍は勢聲の大なるに因り全省を擧げて公然獨立を宣したり即ち十三日南昌省議會は特別大會を開き李烈鈞、討袁軍總司令に歐陽武を都督に推し、賀國昌は依然民政長とし、愈應鴻を兵站總監に任じ歐陽武の對して、公然討袁軍の徵文を公布し廣く天下に呼號したり文に曰く、

江西は光復より後李都督が贛(江西)を治め地方の秩序井然たるを得たり後袁世凱の輿動が法に違ひ共和に乖るを以て我が輿民及び李都督は時に進んで直言忠告し其の悔悟せんことを冀へり乃ち中央は反つて猜忌を生じ日に吾が贛人に對するを思ひ吾が贛人倚任の李都督を免官せり吾が贛人は大局を顧全す

▲北京政府の態度

今回江西の警報至るや北京政府の態度は預期せるもの如く頗る沈着慎重の態度に在るが如し想ふに時正に蒙古問題の急なる時に於て露國との交渉は只議院承認の一事を待つて一段落を告げ力を南省に専らにし得るを以て議會に對する運動に日も足らざる有様を在り、而して江西の事爆發するや十二日を以て歐陽武に陸軍上將銜を與へ、劉世鈞(第二師長)に陸軍中將銜を授け李純を九江鎮守使たらしめ劉世鈞をして之に副たらしめ先つ江西首腦部の動搖に楔子を打てり、而して翌十三日は滿洲の張作霖に勳二位を與へ、丁槐を陸軍中將に任じ、而して政黨に托して江西の亂事に及び暗に國民黨の牽制に及びたり曰く、

黎元洪の電稱に據るに近日亂黨多く政黨の名義を借り軍隊に勾結して黨票を

● 煤 ● 炭 ● 紙 ● 銅 ● 花 ● 紗 ● 布 ● 湖 ● 北 ● 水 ● 泥

● 製 ● 電 ● 棉 ● 正

● 三 ● 菱 ● 公 ● 司 ● 上 ● 海 ● 支 ● 店

五五路川四海上

(四六九二●二九一話電)

諸公債株式 定期現物買賣 取扱 有價證券信託

本店 東京日本橋區兜町六番地

栗生 武右衛門

支配人 川岸 藤太夫

經理 朱 葆 三

栗生洋行 上海支店

九江路壹號A 電話貳〇壹六 貳六貳六







▲兵站總監 趙正平 浦口下關に設く  
▲第一師 師長 章梓  
▲二旅あり 師長 夏尊武 戡翼翅  
外に砲兵一團騎兵一團、工兵輜重兵各一營預備兵若干に機關銃三十餘挺あり  
▲第八師 師長 陳之曠  
▲二旅あり、旅長黃愷元  
外に騎兵一團砲兵一團、工兵輜重兵各一營、要塞砲兵一團、機關銃約八十挺と稱す  
▲第三師は師長冷澆にして目下徐州方面に出動中なり、

東南の形勢は斯くの如く討袁軍の勢力日に瀾漫し浩々として滔天の勢を成さんとし、時局の將來は實に豫測すべからざるものあり、若し當國の民心をして恥を知るに養ひ覺るゝの勇ある國民ならしめれば現政府の爲め東南數省獨立したりとて敢て憂ふるに足らざる所なれども翻雲覆雨今日の腹心は明日の敵なり、頼み難き事此の國民の如きは無し、即ち古今の歴史は勿論殊に前年發難以來の事績は(各省の響應、即ち民國成立の事實)之を證して餘あり、故に若し此の風潮をして增長せしめんか再び現政府覆没の機を造る事無しと言はんや、現時の形勢よりすれば北京政府は討袁軍の獨立諸省に比し猶數倍の優勢を持ち、而して此の時局に對し最も緊要なる影響を有する者あり、何ぞや他なし

▲海軍の向背 是なり、前年の役薩鎮冰の率ゆる征討艦隊の行動は直ちに之を今用に應用し得べけん、長江は天璽なり海軍の向背は江南を征する袁政府の軍隊の作戰に多大の影響を興ふるを以てなり、海軍の向背將來の時局に大關係を有すと云ふ所以なり、更らに注意すべきは

▲時局の將來如何

▲袁政府討伐方策の緩急 如何 是なり、討袁軍の聲勢の如し而して國

民の性情亦前述べたるが如し故に袁にして急遽討伐の實を築くるに非らずんば、自己に歿する反對の風潮は日に甚しく遂に收拾すべからず自らの難に殉するに至らん、故に時局の將來は一に袁が未だ己に反せざる諸省を統合し急遽に江西を復し南京を衝き得るや如何によりて決せらる、

人心の好悪如何の如きは抑も未なり、思ふに今次の舉は袁に取りては自己の存亡に關す、(前年武昌の征討の際に袁が清朝を推倒せんとする野心ありて事更らに八百長を行ひ彼の如き結果を來せし)故に今次は必ずや慎重全力を擧げて討伐の事に力を致すべし、若し討袁軍にして機會に乘じ奮闘努力するに非らずんば又此の好個の機會を逸し再び起つ可らざるに至らん、何となれば卿等に對する袁の憤恨は彼の暴悪なる高壓手段を以て此回の動亂あるを期し居れば若し卿等にして一蹶せば袁は必ず高壓暴壓を以て卿等の遺子なきを期すべし、若し夫れ卿等に妥協を以て終極の目的とせばは誤れるの甚しき者なり(妥協の弊は卿等の共に骨に徹して感せし所なればなり、卿等にして振はずんば袁何を假借せんや、刀は已に鞘を脱せり、卿等奮闘其の目的を達せずんば斃れて後止めよ、)時局は斯くの如く紛糾せり、思ふに必ず將來に向つて永續せん、實に此次の動亂は民國興亡の岐るゝ所に於て關係する所重大なり我等も亦勉めて變に處し報道する事を怠らざるべし

文苑

▲越遊脩禊草(接前) 曹菴史曾瀾

著作権保護コンテンツ

時局と漢字新聞の態度

是迄漢字新聞論調の一欄を設け支那の輿論思潮の一端を紹介し來りしが今回江西事變起りし爲め其論調を掲載するは尤も肝要なるも遺憾ながら紙面に限り到底出來得べからざる事なれば本號に限り特に各新聞の時局に對する態度を略述し支那人心趨向の如何を知らんと欲するの爲め參考に資することとせん

▲申報 同報は舊共和黨の機關紙なれば固すり袁世凱に歸向し國民黨に同情を寄するものにあらず然れども過激の論を登載せず常に重きを上海附近の人心を得るに置き電報記事共に備はり餘り作爲せるものなし今回の事變に對しては極力兵禍の思むべきを論じ居れるが其態度に至りて曖昧にして南北兩軍は兩ながら敗るべからざる羽目に陥れるを以て輕々に看過すべからずと云ひ昨今に至りては顯かに日露兩國の野心を疑い國人に向て漁父の利を占めたる勿れと警告し居れり

▲時報 同報は曩時袁世凱より買収されたりと稱せられしが國民黨を嫌忌することは勿論近頃稍々宗社黨的色彩を帶ぶる議論を吐き政府を責むるに當りても極く遠慮し國民黨は社會の信用を失したれば今後政府にして施政其宜しきを得れば國民黨を痛恨する程度は轉じて政府に移るべく心せざるべからずと云ひ同時に進歩黨に對しては常に御用を力め居り而して今回の事變に對しては最初知評位にて江西起事を冷笑し居りしが昨今は第二次革命の非を論じ世の維持とて人民一方面にのみ重きを置くは不可なり時局は收拾さるべし萬一大事に及ばば外人の干渉を受けず又絕對に外人の扶助を受くべからずと云ひ結局政府辯護の傾向を示し居れり

▲新聞報 同報は元來中立派に屬し申報と同じく商界に得意を求め居れるを以て兵禍を頗る嫌忌し一昨年の革命事變に際しても第一に自保論、維持論を稱導

濟生堂大藥房

胃腸肺病救世丸  
原因療法救世丸  
濟生堂大藥房  
上海虹口西華德路文路角  
電話一二二五六

神經ボルニバル  
濟生堂大藥房  
上海虹口西華德路文路角  
電話一二二五六

貧血症  
神經衰弱ボビニン肉液  
濟生堂大藥房  
上海虹口西華德路文路角  
電話一二二五六

奇効劑  
濟生堂大藥房  
上海虹口西華德路文路角  
電話一二二五六

滋養  
強壯劑ヘムグロビン錠  
濟生堂大藥房  
上海虹口西華德路文路角  
電話一二二五六

婦人諸症  
原因療法 壯婦丸  
濟生堂大藥房  
上海虹口西華德路文路角  
電話一二二五六

消化  
新劑  
タカチアスターゼ  
濟生堂大藥房  
上海虹口西華德路文路角  
電話一二二五六

濟生堂大藥房

今この事變に對しても矢張り當時と同様、人民の塗炭に苦しむを慨嘆し國民黨の態度に對し心善よらざるも敢て深く云はず只だ大勢は北軍優勢にして南軍脆弱なりと云ふ盛んに日露兩國の密約行動によりて漁父の利を占めたる、勿れど警告し日本は民黨を利用し露國は清朝遣臣を利用して蠶食鯨吞の目的を遂げんとすなりと云ふ居れり此報は今回の事變前は袁世凱にも孫毓汶にも強く攻撃する所ありしが宗は同報内に進歩黨側と社黨同情派の記者あるか爲めなりと噂せらる

▲大共和日報 同報は統一黨の機關紙にして袁世凱に同情し盛んに孫毓汶を痛罵するに紙なり而して今回の事變に對しては速かに共和の障害を除去すべしと暗に國民黨側の舉動は大共和の名を借りては世の聖賢の道を倡言せば陳腐と云ひ制裁を加ふれば今日は平權なりと云ひ罪大極惡の詹大悲、李雨霖、胡非、亂事主謀者の如きを辯護するとして痛く攻撃の矢を放ち、今日迄別に江西の亂事を是非せずして態度平然たり

▲神州日報 同報は舊共和黨派にして今は進歩黨の機關紙なり然れども同報は滿清時代已に袁世凱に買収されたりと稱せられ今仍其關係を保持し居れるもの、如く常に中央政府の爲め護議する所あり北京電報の如き能く政府側中の消息を伺ふに足る而して同報は由來排日記事を以て有名なり今回の事變に對しては論文上別に是非するにあらずとも短評には第二次革命の謂れなきを云ひ國民黨派の各省が獨立を宣布せざるは專制の復活を見るに及びす冒險を一舉に退ふせるが爲めなり民氣大に用ひて不可ならんやと云ふに對し中國人民の智識淺生計の困難甚しく媮安且夕大都存す第二次革命者其れ待む所は果して如何な苦がかり居れり

▲時事新報 同報は舊共和黨の機關紙にして今は進歩黨なり一時盛んに孫毓汶を痛罵したるが其有無は兎も角孫の惡逸事を遺憾なく登載したる程なり然れども元來同報は重きを實業界に置くを以て論説は稍々建設的に趨り特に近時の江西事變に對しては別に論説を試みず電報等は凡て北軍に都合善きものを記載し寧ろ慌てざる態度を持せり

▲民立報 同報は純革命黨の機關紙にして宋教仁主筆以來極力政府攻撃に餘念なかりしが一昨年の革命事變暴發以來は頗に其聲價を増し共和の主張に銳意なり此報の言も云はる國民黨側中堅の健派の新聞なり今回の事變に對しては極力袁世凱を攻撃し餘す所無き袁世凱の罪狀を發し其論旨は袁を尙擊せざれば到底共和の眞諦を實現すべからざるやと云ふにあり而して文字は袁賊討袁等を用ひ甚しきは大總令の題目を書するに當り非國民黨側が何れも大總統とするに似ず此報は亂令と書し暗に倒行逆施の令たるを示し居れる程なり而して今に袁世凱は窮地に陥るもの、如く書し軍心、地理、將士の三點に於て必敗すべきを説き人心の歸向に力め居れり

▲中華民報 同報は國民黨派にして民權報の所論と伯仲し別に軒輊なき今回の事變は寧ろ政治革命と云ふより討袁とせざるべからざるなり袁の發行は政治上に何等の作用を顯さず人民は豺狼兇賊を以て袁を待ち居ればなり言ひ換ゆれば政府は自若たり今日國權日に落ち政治日に腐敗するは政府の不善人民程度の低下にあらずして袁一人之が妨害をなせるが爲めなり故に討袁の故ある知るべきのみと云ひ居れり

▲民權報 同報は元自由黨派にして國民黨中に最も激烈なる新聞なり袁世凱の痛罵に至りては民立報以上と知れば足れり江西事變は袁軍より激變せしめたるものにして罪彼にありとは此痛論の要旨なり

▲上海城内の防備 南京獨立の宣言を以て上海城内にありては市街の秩序安寧を維持するの必要ありと十七日午後三時南商會商董は臨時會を召集し商團公會會長、救火聯合會、教育會等と協力し一會を組織して上海保衛團と名づけ李平書を團長とし市政廳内に事務所を設けた

▲製造局の警戒 製造局陳督理は十五日晚南京獨立宣布の確電を得たる後海陸各軍領袖を會同して戒嚴辦法を商議し並に機關銃等を各門に配置し防備をたつき怠りなき有様なるが更に十六日夜に至り不穩なる風信の流布せらるありしを以て第六十二團の陳團長は萬一の爲め同團第一及第二兩營の兵一千餘名に七密里九の速射砲六十門を附して製造局に増派し、十七日朝には又砲兵隊長張玉突に命じ七センチメートル五の速射砲四門を各門に配置し夜を徹して警戒しつゝあり幸にして未だ何事も發生せざりが附近の居民は戰慄の近きを虞れ上海租界に向つて逃避するもの絡繹として斷たず、沿道は一大混雜を呈し居れり

▲上海城内の防備 南京獨立の宣言を以て上海城内にありては市街の秩序安寧を維持するの必要ありと十七日午後三時南商會商董は臨時會を召集し商團公會會長、救火聯合會、教育會等と協力し一會を組織して上海保衛團と名づけ李平書を團長とし市政廳内に事務所を設けた

▲吳淞沖の砲擊 十八日朝芝罘より來りたる四本煙突の支那驅逐艦飛龍が五色旗を翻がへし吳淞砲台沖を通過せし時に砲台は突然巨艦に向つて砲火を送り其一艘は艦に命中し數名の負傷者を出せり、艦は全速力を以て着彈距離外に逃れ、一先づ其危險を避け負傷水兵を吳淞海軍病院に送りたり、吳淞砲台が何故に驅逐艦を砲撃せしか不明なるが、一説によれば今回討袁軍上海總司令に舉げられたる陳其美が北軍に屬する艦艇は之を

▲吳淞沖の砲擊 十八日朝芝罘より來りたる四本煙突の支那驅逐艦飛龍が五色旗を翻がへし吳淞砲台沖を通過せし時に砲台は突然巨艦に向つて砲火を送り其一艘は艦に命中し數名の負傷者を出せり、艦は全速力を以て着彈距離外に逃れ、一先づ其危險を避け負傷水兵を吳淞海軍病院に送りたり、吳淞砲台が何故に驅逐艦を砲撃せしか不明なるが、一説によれば今回討袁軍上海總司令に舉げられたる陳其美が北軍に屬する艦艇は之を

▲上海城内の防備 南京獨立の宣言を以て上海城内にありては市街の秩序安寧を維持するの必要ありと十七日午後三時南商會商董は臨時會を召集し商團公會會長、救火聯合會、教育會等と協力し一會を組織して上海保衛團と名づけ李平書を團長とし市政廳内に事務所を設けた

▲製造局の警戒 製造局陳督理は十五日晚南京獨立宣布の確電を得たる後海陸各軍領袖を會同して戒嚴辦法を商議し並に機關銃等を各門に配置し防備をたつき怠りなき有様なるが更に十六日夜に至り不穩なる風信の流布せらるありしを以て第六十二團の陳團長は萬一の爲め同團第一及第二兩營の兵一千餘名に七密里九の速射砲六十門を附して製造局に増派し、十七日朝には又砲兵隊長張玉突に命じ七センチメートル五の速射砲四門を各門に配置し夜を徹して警戒しつゝあり幸にして未だ何事も發生せざりが附近の居民は戰慄の近きを虞れ上海租界に向つて逃避するもの絡繹として斷たず、沿道は一大混雜を呈し居れり

▲上海城内の防備 南京獨立の宣言を以て上海城内にありては市街の秩序安寧を維持するの必要ありと十七日午後三時南商會商董は臨時會を召集し商團公會會長、救火聯合會、教育會等と協力し一會を組織して上海保衛團と名づけ李平書を團長とし市政廳内に事務所を設けた

▲吳淞沖の砲擊 十八日朝芝罘より來りたる四本煙突の支那驅逐艦飛龍が五色旗を翻がへし吳淞砲台沖を通過せし時に砲台は突然巨艦に向つて砲火を送り其一艘は艦に命中し數名の負傷者を出せり、艦は全速力を以て着彈距離外に逃れ、一先づ其危險を避け負傷水兵を吳淞海軍病院に送りたり、吳淞砲台が何故に驅逐艦を砲撃せしか不明なるが、一説によれば今回討袁軍上海總司令に舉げられたる陳其美が北軍に屬する艦艇は之を

▲吳淞沖の砲擊 十八日朝芝罘より來りたる四本煙突の支那驅逐艦飛龍が五色旗を翻がへし吳淞砲台沖を通過せし時に砲台は突然巨艦に向つて砲火を送り其一艘は艦に命中し數名の負傷者を出せり、艦は全速力を以て着彈距離外に逃れ、一先づ其危險を避け負傷水兵を吳淞海軍病院に送りたり、吳淞砲台が何故に驅逐艦を砲撃せしか不明なるが、一説によれば今回討袁軍上海總司令に舉げられたる陳其美が北軍に屬する艦艇は之を

▲吳淞沖の砲擊 十八日朝芝罘より來りたる四本煙突の支那驅逐艦飛龍が五色旗を翻がへし吳淞砲台沖を通過せし時に砲台は突然巨艦に向つて砲火を送り其一艘は艦に命中し數名の負傷者を出せり、艦は全速力を以て着彈距離外に逃れ、一先づ其危險を避け負傷水兵を吳淞海軍病院に送りたり、吳淞砲台が何故に驅逐艦を砲撃せしか不明なるが、一説によれば今回討袁軍上海總司令に舉げられたる陳其美が北軍に屬する艦艇は之を

法界呂班路三三三  
純牛  
良乳  
愛光社  
電話貳壹七五番

ASAHI BEER  
大日本麥酒株式會社  
釀造元  
代理店三井物產會社



砲撃すべき事を命じたるによること稱す、尙同艦艦長は吳淞砲臺は同艦艦隊と同一の五色旗を翻がへし居るに拘らず之を砲撃せしは不法の至りなりと憤慨し居るなり

●時局之上海市場 國民黨派の領袖は袁世凱の壓迫に堪へずと稱し、所謂討袁軍を組織して、南京及江西の獨立を宣言するや、由來勢に集る支那人の事として、之に響應するもの鮮ならず、可なり勢力を得るに至りたるを以て、此紛亂の鎮定を見ること容易ならざるべしと見込み、上海の商業界は各方面共に非常なる打撃を蒙り、綿絲、雜貨に論なく、先物取引は全然停止の有様となり、毎週一回発行ふべき怡和洋行のビュスグリーブ競賣の如き十七日はオークション日なるに拘らずビュスグリーブ皆無の爲の自然中止となりし程なりき、唯だ此際於て獨り活氣を示しあるものは墨銀相場にして今兩この換算率を聞くに

十五日 七十三兩、五二五  
十七日午前 七十四兩、二〇〇  
十七日午後 七十七兩

にして著しき騰貴を示し居れり、之れ時局の爲め墨銀の需要俄かに増加せしによるものなるが先年の革命時に於ける墨銀相場の最高レコードは八十三兩を示せしを以て今に於ける最高相場たる七十七兩に比せば尙六兩の下相にあり、故に時局の尙紛糾し來るに連れ同銀は益々騰貴を見るに至るべしと觀測せらる。

するを以て上海に能く保護するを以て安心すべし若し間に乘じ治安を害するものあらば軍法に處すべしと云ふにあり其の端を藉りて自由に募兵すべからずと云ふにあり其四は如上の三告示を出せる理由を述べ一般に特示せる嚴禁條項は擅に招兵するものは斬す、紀律を守らざるものは斬す、陣に監み退却するものは斬す、防守疏懈者は斬す遺言生事者は斬す、閩閩を強がすものは斬す等是なり

▲淞滬警察長辭職 同長程軒齋は去十八日南京都督に辭表を呈出したる爲當地各團體は李平書を代理廳長に擧げ治安に關する訓令を發せり

▲保衛團簡章 去十八日上海市政廳は保衛團簡章を規定し治安を維持することとし團長に李平書を擧げたり

▲閩北獨立 去十八日午後一時白旗を懸け李平書は其夜閩北警察廳に臨み獨立を宣言せり

▲松江軍の來滬 同軍は鈕永健總司令となり去十八日松江軍を率ひ來滬し其兵數は四千乃至七千と稱するも其實數は一千内外なるべしと

▲機器局引渡交渉 李平書は去る十八日機器局に至り陳監督、蔣北軍指揮官等と會見し平和的に引渡を交渉せるが未だ其落着を見ず或は頑として之に應ぜざるが爲めなりと云ひ或は北に歸還せしむるに就き其費用要求問題纏まらざるが爲めなりと皮肉な言ふあり

▲佛租界の防備 佛國總領事は今回佛租界に對し萬一を慮り當港淀泊の佛國軍艦より武裝せる水兵廿名を上陸せしめ租界内を取締ることせり

好意にて縣衙門の奥よりたる一室に瀆れり、陰雨滋くして歩行頗る難し、鄒縣は山東の片田舎何等語るべきもの無し、唯だ城南に孟母三遷の故址あり、城東に聖聖孟子の墳あり、孟母廟の處今尙存するも祠堂の内雜草徒に深くして歩を進むれば露ハラハと散り老樹半ば枯れて葉の世を飄するに似たり、鄒國端範宜獻夫人の靈は今僅かに麥臺の守護と爲る、雜草裡の石碑、千風百雨徒に朽ちて碑文讀むに由無し

大賢前に生る、や周道之に依て繼がる千載の後部に至れば聖聖祠の門徒に破衣垢面の乞食先生の宿と爲る、今日鄒縣天に晴れぬ老樹に蟬の聲あり、今日鄒縣を去りて曲阜に向ふ、夫子の廟を訪ふて再び綠草に漉がんなせり(十二日)

●公私人消息

▲高木陸郎氏 旭商會の高木陸郎氏は去る十八日上海出帆の八幡丸にて歸京八月下旬に又々來滬の筈

▲程德全氏 江蘇都督程德全氏は同民政長應德閣氏と同伴去る十七日早朝南京より來滬

▲村上貞吉氏 久しく旅行中なりし當地辯護士法學士村上貞吉氏は本月二十日過ぎには回滬すべしとの事なり

▲小川貞平氏 海軍官小川貞平氏は去る十八日讚岐丸にて香港に赴く

▲フインク氏 當地東亞ロイド主筆にして兼ねて北京地方出張中なりし同氏は去る十四日歸滬したり

▲河野久太郎氏 歸國中なりし當地大倉洋行支店長なる同氏は去る十五日回滬

▲遠藤麟太郎氏 長江上游各地旅行中なりし同氏は去る十三日回滬の上杭州に遊び近々歸朝の筈

▲井手友喜氏 上海日報副社長なる同氏は暑假の爲め去る十五日歸京

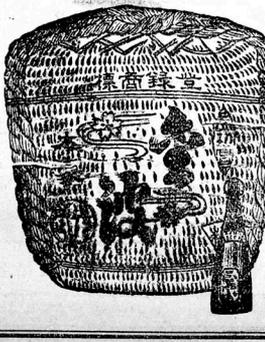
▲神尾茂氏 當地日本聯合新聞通信社佐原篤介氏の助手として去る十九日山城丸にて來滬

●上海船出入統計

本月十一日より同月十七日に至る一週間中上海港に出入せし内外汽船の總計は二百〇六隻、三十七萬六千四百〇一噸にして内入港船は百〇三隻、十八萬七千七百四十三噸、出港船は百〇三隻、十八萬九千二百五十八噸に上る、其詳細は左の如し

| 入      | 出       |
|--------|---------|
| 英國 四三  | 一〇三     |
| 日本 二一  | 四五      |
| 支那 三〇  | 二〇      |
| 獨逸 四   | 二五      |
| 露國 一   | 七       |
| 佛國 一   | 一       |
| 瑞國 一   | 一       |
| 和蘭 一   | 一       |
| 那威 一   | 一       |
| 合計 一〇三 | 一八七、一四三 |
| 英國 四三  | 八五、〇五六  |
| 日本 二一  | 四九、八四一  |
| 支那 三〇  | 二六、〇三九  |
| 獨逸 四   | 一五、八〇九  |
| 露國 一   | 三、一六四   |
| 佛國 一   | 二、二一一   |
| 瑞國 一   | 三、五〇二   |
| 和蘭 一   | 一、九三二   |
| 那威 一   | 一、七一一   |
| 露國 一   | 一、七一一   |

眞に酒界の霸王なり  
金波は品質純良にして酒界の霸王なり  
眞に酒は金波に限る



和洋酒類 上海虹口スカチ路  
食料品類  
清涼飲料

中村洋行  
(電話四〇六四)

京東ルブール會製

ンサタルブーノ  
ーダイサルブーノ  
ーダイサヂンレオ  
テ ー ナ モ レ

店約特 天野號

號野天

(三三八一話電)前場市口虹

和蘭 合計 一〇三十一 一八九・二五八  
 總計 二〇六 三七六・四〇一

**郵船虹口在庫品** (日清の)  
 (七月十六日調査統計) (部を余じ)

品名 數量 前號比較 (△印減)

|        |        |        |
|--------|--------|--------|
| 印度綿絲   | 六〇四四五  | 一四八    |
| 綿絲大俵   | 二三、一〇八 | △一〇八   |
| 綿絲小俵   | 二五、一五  | 一〇九    |
| 金巾(雙包) | 三、六七七  | △二一九   |
| 金巾(單包) | 一、五二三  | 二〇五    |
| 熨斗箱    | 四三、五二五 | 三、四四〇  |
| 白糖     | 六、八〇七  | 一、三三〇  |
| 麥粉     | 六、四九八  | △一〇四   |
| 昆布     | 二、三三〇  | △四四〇   |
| 切昆布    | 一、四    | 二      |
| フランネル  | 一〇六    | △三三七   |
| セメント   | 七、四二三  | △一、〇三〇 |
| ガニーニ一袋 | 六、二    | △一、三六三 |
| 雜貨(箱)  | 七、四二三  | △一、三六三 |
| 雜貨(包)  | 六、二    | △一、三六三 |
| 紙      | 七、三三七  | △一、三六三 |
| 桶板     | 七、三三七  | △一、三六三 |
| 九江紙    | 七、八六九  | △四六四   |
| 洋紙     | 三、二九   | △四     |
| 強水     | △四     | △四     |
| 鉄子     | △四     | △四     |
| 錫      | △四     | △四     |
| 麻袋     | 二、二四   | △二六    |
| 銅      | 二、二四   | △二六    |
| 舊鐵     | 二、二四   | △二六    |
| 棉花     | 二、〇三六  | △〇九六   |
| 白蠟     | 二、〇三六  | △〇九六   |
| 片板     | 一、〇    | △八〇〇   |
| 木炭     | 六、二五   | △四〇〇   |
| ミルク    | 六、二五   | △四〇〇   |

**上海港輸出入統計**

本月十一日より同十七日に至る一週間中に於ける、上海港と、日本本土、朝鮮台灣、大連間貿易の形勢は左の如し、

**輸出の部**

(一) 日本本土への輸出

|        |        |        |
|--------|--------|--------|
| 札板     | 五〇〇    | △一、〇九七 |
| 酒      | 七二一    | △五〇一   |
| 麥酒     | 一四〇    | 四〇     |
| 材木     | 一四〇    | 四〇     |
| 石炭     | 一一、七三〇 | △六九六   |
| 米(籠)   | 一一、七三〇 | △六九六   |
| 油(箱)   | 一、〇三三  | 一六一    |
| 大豆     | 四四九    | △五四七   |
| 鹽魚     | 一一八    | △一〇〇   |
| 種物類    | 二七、〇八一 | 二、六三八  |
| 機器類    | 七八三    | △四三八   |
| 豆粕(袋入) | 二、七九三  | △四、七九六 |
| 茶      | 四      | 一、二二三  |

**上海港輸出入統計**

本月十一日より同十七日に至る一週間中に於ける、上海港と、日本本土、朝鮮台灣、大連間貿易の形勢は左の如し、

(二) 朝鮮への輸出

|       |         |           |
|-------|---------|-----------|
| 輕木片   | 五九六個    | 鷄卵 一、七二〇個 |
| 葛布類   | 九三担     | 羊皮 五〇枚    |
| 紙卷烟草  | 一〇〇担    | 紙 一九担     |
| 壁紙    | 一七、〇〇〇反 | 晒金巾 七〇反   |
| 白金巾   | 四、七〇〇反  | 綾木棉 九〇反   |
| 哩暖    | 一〇反     | 絹布 四四担    |
| ガンニ一袋 | 三、六〇〇枚  | 南京木棉 四四担  |
| 綿布類   | 九七反     | 綾木棉 〇反    |
| 吳呂    | 一、〇〇反   | 書籍 三担     |
| 蠟燭    | 一八担     | 細綾木棉 三〇反  |
| カンチン  | 二〇担     | 赤砂糖 元担    |
| シロリ   | 二担      | タオル 一〇〇打  |
| 甘蔗    | 二担      | 子イロム 五担   |
| 綠茶    | 二担      | 紅糸 五担     |

**上海港輸出入統計**

本月十一日より同十七日に至る一週間中に於ける、上海港と、日本本土、朝鮮台灣、大連間貿易の形勢は左の如し、

(三) 台灣への輸出

|      |        |          |
|------|--------|----------|
| 鉄子   | 一、二五担  | 燈心草席 五〇枚 |
| 皮蛋   | 一〇、五〇個 | 鹿皮 一四担   |
| 靴    | 三〇担    | 大豆 二四担   |
| 洗濯石礮 | 二担     | 鯨脂 五担    |
| チャイナ | 一担     | 鯨脂 五担    |
| ルト   | 一担     | 鯨脂 五担    |

(四) 大連への輸出

|        |        |            |
|--------|--------|------------|
| 晒金巾    | 二〇反    | 白金巾 二九反    |
| 晒粗布    | 五反     | 細綾木棉 五反    |
| 紋金巾    | 九反     | 天竺木棉 一〇〇反  |
| 綿布類    | 三反     | ハンカチーフ 三〇打 |
| ガンニ一袋  | 三、六〇〇枚 | 絹吳呂 九〇碼    |
| 綿フランネル | 四反     | 亞波綿絲 二六担   |
| ガンニ一袋  | 三、五〇〇枚 | 亞鉛鐵板 二六担   |
| 南京木綿   | 二担     | 鐵骨 二担      |
| 袋(五)   | 二担     | 亞鉛鐵線 三担    |
| 鐵線     | 三担     | 亞鉛鐵線 三担    |
| 靴下類    | 三九打    | 絹布縮緬類 三六斤  |
| 麥粉     | 二五担    | 紙 二九担      |
| 甘蔗     | 一五担    | 其他支那靴(六)足  |
| 米      | 二〇担    | クロイゾ 六五碼   |
| 駱駝毛布   | 三〇碼    | メロイゾ 一五碼   |
| マカナク   | 四反     | クロイゾ 一五碼   |
| 天鷲紐線   | 二、〇〇碼  | 石礮 六五担     |
| 大豆     | 一〇担    | 大豆 一〇担     |

**輸入の部**

(一) 日本本土よりの輸入

|        |           |              |
|--------|-----------|--------------|
| 乾鮑魚    | 九担        | 洗濯石礮 七六担     |
| 海參     | 三担        | メリヤス器械 一五台   |
| 白銅線    | 二担        | 黃銅線 三担       |
| 軸木     | 二担        | 經木 三担        |
| 乾魚     | 二担        | 魚骨 二担        |
| 昆布類    | 三担        | 魚翅 二担        |
| 漂白粉    | 一担        | 麥糖 一八九三担     |
| 石灰     | 三担        | 麥酒 三〇八打      |
| 軟木     | 一、五五三、二五反 | 硬木 三、〇八八、二五反 |
| 天竺木棉   | 三、〇〇反     | 天竺木棉(染) 二〇反  |
| 綿縮     | 五担        | ガンニ一袋(五)七担   |
| 敷布     | 四〇枚       | 時計 八枚個       |
| 洋傘     | 二、三〇本     | 蓆 二、四四枚      |
| ウイニ    | 八六碼       | 綿絲 五、五二担     |
| ランネル   | 八担        | 牛皮 三九担       |
| 綿縮物    | 九担        | 舊鐵 五担        |
| 乾蛤     | 一担        | 淡菜 二担        |
| 靴底皮    | 一担        | ゴム(等外) 二担    |
| 未磨印字紙  | 二担        | コークス 五七噸     |
| 礦油     | 一五、〇〇担    | 鐵骨 四担        |
| 鮑魚貝    | 元担        | 鐵骨 四担        |
| 空箱     | 二〇個       | 鐵骨 四担        |
| 罐詰果物   | 九打        | 手袋 五打        |
| カラ     | 三打        | 紙(ワッペン) 五担   |
| 藥板紙    | 八担        | 蝦米 一八担       |
| 構寸箱用經木 | 八担        | タオル 三、七三打    |
| 手提カバン  | 一打        | 靴下類 二、八三打    |
| 鏡類     | 五打        | メリヤス肌衣 五打    |
| メリヤス肌衣 | 四打        | ボタン類 五打      |

東亞公司書藥局

上海河南路(工部局北隣)

(電話一七三四)

賣販出版籍書種各の向那支

賣販次取籍書那支及び本日

器樂琴風及び具動運具房文

類品用店商及び社會校學各

賣販製造藥賣種各他其水日月藥目

賣販手一等餘田淺活胃湯將中丹仁

藥賣各本日及び品藥用業工用療醫

品粧化他の其粉磨齒油香水香輪石

革金入 六ヶロス 鑄寸 一四七ヶロス  
 醬油 三担 皮靴類 一二〇足  
 烏子紙 二〇一担 綾木棉 六三〇反  
 帆船棉 三六五碼 硫酸 三五担  
 クラップ 二九七碼 鋪詰鮫魚 六六打  
 木炭 六五担 晒粗布 二五〇反  
 (一)朝鮮よりの輸入(無し)  
 (二)台湾よりの輸入  
 三〇担 木髓紙 六担  
 葉香根 三担 乾龍眼肉 三〇担  
 藥品 二担 台灣席 一〇〇枚  
 葉糞 二担 台灣席 一〇〇枚  
 (四)大連よりの輸入  
 大麻子 一五九担 松質 五担  
 野蠶絲 一担 銀貨 一六九二兩  
 清村更紗木綿 二〇〇反 豆油 三三担  
 凍汽水 二〇〇打 蠟パラフソ 九六担  
 石灰 二六噸

●金融市況自七月十七日  
 ▲銀塊及爲替相場 時局の爲め商人は其前途を見越し兼ね凡て取引は當座のものみに止め、先物の手合はせを控へるに至りたるを以て上海市場の一般取引は極めて閑散を呈し従つて爲替相場の如きもさしたる變動を見るに至らず左の如き足取りを示し居れり  
 直銀塊 倫敦向電 日本向電  
 七月十一日 297 277 767  
 十二日 297 277 767  
 十四日 297 277 767  
 十五日 297 277 767  
 十六日 297 277 767  
 十七日 297 277 767  
 ▲金融市場 時局の爲め取引の閑散に連れ資金に對する需要少く市中銀行の手元は依然潤澤を示し居れり、唯大墨銀に對する需要は依然として増加し來り本稿締切日たる十九日に於ける兩との換算率は七十六兩を唱ふるに至れり  
 七月十一日 銅銀 墨銀 銀塊  
 十二日 三、六〇 三、六〇 六、六九  
 十三日 三、六〇 三、六〇 六、六九  
 十四日 三、七〇 三、七〇 六、五〇  
 十五日 三、七〇 三、七〇 六、五〇  
 十六日 三、七〇 三、七〇 六、五〇  
 十七日 三、七〇 三、七〇 六、五〇  
 ●各種商況  
 ▲外國綿 リヴァプール市況多少の變動ありしも結局六片七四に落付き十月物十一月物六片一六を唱ふ、ベンガル物は前週同様五片十六分の七埃及物は九片五五となる、紐育市況は現物十二弗三十五仙、七月物十二弗二十仙十月物十一弗五十四仙マンチエヌスター市況依然變化なし  
 ▲支那棉 天候引續き満足の状態にあり、棉作は頗る見込あり、秋穫も多額ならんも多少運るべしとの事なり、時局の影響を受け値段は多少引締り居れり即ち通州物二十五兩五匁、太倉物二十五兩四チヨップ物及上等機械線二十三兩六匁上海物二十三兩四匁、寧波物二十二兩四匁、北市種十二弗五匁南市種十一弗五匁、週中日本向輸出高千三百三十担各地への輸出總高三千七百十担あり  
 ▲日本綿絲 週中取引高千五百匁にして十六手物百六兩乃至百六兩五匁二十手物百十二兩五匁乃至百十九兩最近入電三品相場市況百三十八圓八十錢中百三十六圓四十錢先百三十五圓九十錢  
 ▲印度綿絲 週中取引殆んど皆無にして僅かに四圓筋の注文ありしのみ、即ち十手物百五十匁九十五兩にて賣れしのみ、週中着荷なし  
 ▲支那綿絲 週中取引高千四百手物雲龍印五百匁が九十九兩の値段に賣れたる

あるのみ、バルドル市況は十手物九十一兩七匁五分乃至九十六兩二匁五分十二手物九十二兩七匁五分乃至一兩七匁五分十四手物九十五兩二匁五分十六手物九十八兩乃至百六兩七匁五分二十手物百七兩二匁五分乃至百十四兩七匁五分  
 ▲倫敦銅相場 近日相場は引續き軟弱にして特記する程の事なし今本月六日及同十八日の入電相場は左の如し  
 G、M、B 電氣銅 志片  
 六日 六二・一〇〇 六五・一〇〇  
 十八日 六二・七六六 六五・一〇〇  
 ▲石炭 炭況は引續き軟弱にして新規手合殆んどなし、南京獨立宣言により



上海口榮路七一五〇  
 電話四〇七五番



店商口山

▲他社扱 六八三七  
 一〇、八五〇  
 ▲糖砂 今次江西に於ける動亂發生以來市面頗に悪しく再び前年革命亂當時の不振状態に陥るなきや懸念したるに果して各地獨立宣言の報傳はり長江各地戰亂の甚く化せんことを恐れ外荷全く止せり市場亦相場立たざるを、上流各地より夫々注文入込み模様なるも當地問屋何れも警戒して送荷を見合せ居れば精糖爪哇糖馬尼刺糖及支那糖共全く取引なし  
 ▲海産物 ▲昆布 南北戰事愈々勃發したる爲め手持筋は大恐慌を來し賣らんとすれば二兩五匁も買はず、未だ買はんとすれば三兩三匁を唱ふ、未だ相場には大なる變動は來ざるを知るべし  
 ▲錫 上十四兩三匁、中十三兩五匁市況不振  
 ▲貝柱 在荷薄にて日に高價を示す北見六十二兩大五十七兩、三角五十三兩青森五十七兩乃至五十一兩  
 ▲海參 函館もの大百兩中九十四兩乃至八十七兩小七十五兩乃至六十七兩  
 ▲大豆 浦口大豆、上物貳兩八匁六分、中物貳兩八匁三分、火車物は一匁安在荷は約三萬匁尤も其中約定品二萬五千匁位あり  
 ▲蠶豆 大粒貳兩一匁三分、中粒貳兩二匁、在荷五千匁  
 ▲種粕 藥行現物壹兩七匁、葉無壹兩八匁、現物及期近物の引合あるも出廻り盛期は九月を待たざるべからず  
 ▲菜種 黃粒、參兩八匁五分、黃黑麥參兩七匁五分、驢粒の爲め人心動搖し市況振はず  
 ▲時計 洋傘、皮草等の各商況は此時局の爲め取引全く停止されたれば別に記すべき事項なく茲に省略す

製造元 帝國礦泉株式會社  
 輸入元 永井分行  
 電話 一五八四



三野水  
 平野水  
 サイダー  
 ジンジャー  
 オレンジ

虹口吳淞路  
 宮本商店  
 電話三五九七  
 虹口市場前  
 松本商店  
 (電話三五五)

廣告料  
 本紙掲載廣告の料金は行數の多少掲載期間の長短に依り特に御相談可致候間御用の方は端書又は電話にて御一報被下度候  
 週報上海  
 文路二二七(日本堂)轉交  
 發行所 春申社  
 (電話三〇八三)

編輯兼發行所  
 上海電話二七三三 佐原篤介  
 印刷所  
 上海上海路七六 蘆澤多美次  
 電話一八三六  
 電話三〇八三 春申社  
 電話三〇八三

本紙定價(前金)  
 一部 銀十仙 金十  
 一月四部 銀四十仙 金四十  
 半年(半年) 銀貳百二十仙 金貳百  
 一年(一年) 銀肆百四十仙 金肆百  
 (共稅郵) 同四 同四  
 振替口座 福岡四七〇五番  
 支那上海 春申社  
 大正二年七月二十一日

